会報

No. 33

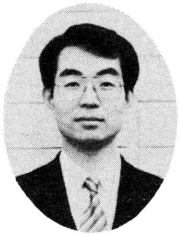
平成6年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局
京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)771－0069

図書館員のネットワークを

舞鶴市立西図書館長
谷　慎一郎



実務の疑問点などを、市町村の枠を越えて話し合う〈図書館員の人的ネットワーク〉をつくるといいのではないか、と思いつく。それはまず、児童奉仕、参考業務などテーマを分ける。各館の規模、サービスの状況を考慮し、十人以内のグループを作成。場所は軽音楽の流れる喫茶店など。ケーキセット付きが望ましい。個々の疑問点や悩み、本音やあるべき方向を話し合う。その道のベテランや講師に入ってもらうのもいい。こんな自主運営のネットワークの会はどうだろうかと、考える。

が、いつもの一人よがりが心配されるので、女性司書三人に「こんな会はどう?。あったらどんなことを聞いてみたい?。」と尋ねる。すると「児童書の選書の方法について。子どもが喜ぶ本と、図書館が奨めたい本とのギャップは、どうしていくのがいいんでしょう?。」

「レファレンスのトゥールは、どの様なものまで揃えていらっしゃるか。アプローチの方法は?。」

「郷土資料の収集はどの様に?。」など次々、他にも沢山出てくる。

府南部には情報交換の場がある、と聞き、電話で尋ねてみる。正式名称は、京都府南部図書館等連絡協議会。現在十二市町、十四館が加盟し、研修会や先進館の見学など、年三回程度の活発な活動が続いている。加盟の数館に、そのメリットを聞く。

「研修機会が増える。」

「一番いいのは、人と人とのつながりができること。」

「館内で何か問題が起こったら、規模などの似た館に、どうしているか尋ねますよ」と、ある館長。

「こんなこと聞いてどうかな、と思うことでも、最近聞いています」と別の館員。一市町二千円の分担金で、うらやましい限りだ。特に私の耳に残ったのは事務局の一言。

「年度初めに総会をやりますが、総会は欠席、夜の懇親会だけ出席、という人も多いですよ。」

日中の開館時に、多くは抜けられないからだろう。中には、ただ単に「お酒が好き」という人も混ざっているかもしれない。が、それらを差し引いても、人と人との情報交換の場が求められていることが、うかがえる。

そこで〈ネットワークの会〉のメリットを思いつくままに挙げると、

①人を通じて、生きた、求めている情報を多量に得られる。これは自館のサービス充実の基礎資料になる。

②日々の実務から生じる問題点について「明日から、実際どうするか」を考え、動き出す契機になる。

③理解し合い、相談できる人の輪は、個々の大きな励みになる。

④人生の良き伴侶が見つかる?

図書館業務（サービス）は、自治体の事務のなかでも、細かい制約が少なく、館や担当者の裁量に多くをまかされている事務であると思う。税務、広報、農林、そして昨年四月に図書館に異動し、こう感じる。それ故、担当者のサービスに対する意識と力量が、サービスの質と量を決める、と言っても過言ではないだろう。その意識を揺り動かし、力量を向上させるには、他館との接触が重要だと思う。もちろん、交換する情報の質を支えるのは、個々の研鑽であろう。図書館一年目の私は、まず何よりも読書、と判っているが……。

ある時、見学に訪れた小学三年生の女の子に質問を受けた。

「館長さんは、一か月に何冊、本を読まれるのですか?。」

彼女の澄んだ目を忘れずにいたい。

第二回京都図書館大会
―ネットワーク時代における図書館サービス―

第二回京都図書館大会が、十二月三日京都府立総合資料館で、九十名が参加して開催された。

基調提案

同志社大学教授　大城善盛氏

図書館ネットワークとは、『ALA情報学事典』の定義では、「コンピュータとスタッフが必要」で、我国では学術情報センターの目録作成や、ILLのシステムがそれにあたる。学術情報を必要とする者には大切なシステムであり、貸出、レファレンス分担収集等を考慮した、総合資料館を含む、京都学術情報ネットワークが必要である。

大学生の図書館利用教育（情報処理能力）の欠如が指摘できる。学校図書館は、図書館利用能力を身に付ける最初のスタート機関であり、図書館サービスの原点である。学校図書館の改善なくして全図書館の進歩はない。公立図書館の学校へのPRや資料提供等の働き掛けが大切である。館種を越えた図書館サービス・相互協力は重要であり、そのためにも、京都図書館協会・協議会の設立を提案したい。

田辺町立中央図書館

田口政広氏

相互協力の内容は多岐にわたると思うが、公共図書館は、特に資料の相互貸借になると思われる。

昨年から府立総合資料館も相互貸借制度に参加され、市町村の住民への資料提供に大きな力となっている。

府立図書館の市町村への協力貸出は、連絡車の運行とも相まって年々増加、平成四年は九、五八六冊（全国六位、日図協調査）、府立へのリクエストの増加は、市町村の資料提供が活発な証拠である。

田辺町は、同志社大学とのレファレンス等の協力。（大学での館内閲覧は従来実施）、資料提供に時間がかかる事、府立二館の目録のデータベース化が、今後の課題である。

立命館大学図書館

松原修氏

学術情報センターのNACSIS・ILLサービスの開始により、NACSISに参加の全国の大学図書館等で相互協力業務を行っている。このシステムは、申し込みをオンラインで行うためスピーディで、依頼した文献が受付館でどんな状態にあるのか即時に画面で判るのが特徴。

関西四大学相互利用協定に参加し図書館利用、文献貸借等を実施。

立命館大学では、一般市民は二十三歳以上、年登録料三千円の一般公開を今年から始めた。

大学は社会的な存在であり、公共図書館等ではフォローできない領域を中心に、或る程度カバーするのは時代の趨勢であるように思う。

京都府学校図書館協議会事務局

田中登茂子氏

図書委員交流会は、一九八五年から実施しており、図書担当の教師と生徒会活動の中の図書委員長等一校三名で、自校の取り組みを紹介し合う一年に一回の会である。今年は、図書館利用の仕方のビデオを作成。

学校図書館は施設もあり、栗陵中学では年間五十万の予算で図書の購入をしているが、昼休みは昼食指導、放課後はクラブ活動と、鍵を開けて開館できないのが現状である。専任の人でないと図書館は機能しない。

京都府立高等学校図書館協議会

中里隆憲氏

府立学校でコンピュータでの資料の整理や管理は、されていないのでコンピュータでのネットワーク化による学校間の相互利用もない。

平成三年度の相互貸借の実態調査では、「相互貸借を行った」が三十八校、この内「借りた」が三十二校、「貸した」が十八校。貸借は四十七件で、府立学校間は十七件、公共図書館等からの貸出は三十一件である。

生涯学習の進行、開かれた学校づくりの中での図書館開放を今年度試験的に四校が実施された。学校教育に支障のない範囲で府民の利用に供するとして、土・日に実施している。

京都ライトハウス点字図書館

江尻裕樹氏

私どもの図書館は、厚生省の管轄であるが、京都府図書館等連絡協議会の中の一員としてやっている。

今年の八月を締め切りとして、京都府の図書館における障害者サービスの実態調査のアンケートを実施した中間報告である。調査対象館は四十三館、回答館は四十館。利用者登録は〇・四四％と非常に低い。宅配サービス、対面朗読、病院等への貸出、郵送貸出等凡てにおいて低調である。盲人用の郵便発受指定の手続きをすれば無料である。また、身体障害者用書籍小包は、図書館法で定められた図書館は申請でき、半額で発受できる。

相互貸借は、実施されていないに等しい数字であり、担当職員の配置も淋しいかぎりである。

図書館めぐり

京都市醍醐図書館

所在地の「石田」は、万葉集のころはイワタと呼ばれて、後に鴨長明の住んだ日野や、兼好が荘園をもった小野の近くまで含んでいたようです。

現在は、「醍醐」の方が、「醍醐の花見」などで有名になったようですが、当館が東余熱利用センターの中にあることもあって、図書館の存在を知らない方も多いようです。（電話で所在をたずねられて「外環状線の六地蔵から山科に向かって……」と答えかけると、「もう少し近い所に、第四か第三などはありませんか」と言われたりします。）

近年、「地域に密着した図書館」をモットーに、まだ来館・貸出登録をしたことがない住民を視野に入れた活動を行ってきました。毎月、地域の自治会役員の方に掲示・回覧していただく図書館だより「本の散歩道」は、三十五号まで発行でき、地域の大人と子どもにだんだん知られるようになってきました。

また、従来からの当館員の手による月一回の「お楽しみ会」の他に、親子が一緒に本を楽しむための講習のような催しや、さらには団体貸出しで図書館活動の一端を担っていただいている子ども文庫の方々のご協力で、「おはなし会」なども行い、「みんなに親しまれる図書館」を利用者とともにつくっていくようにしています。

（写真は館員が手づくりの人形劇「グリとグラ」）

さらに、「役立つ図書館」と受けとめられるよう、新着図書の紹介や古い地域資料の収集・保存などにも力を入れたいと思います。

数年後、二キロメートル北の「ダイゴセンター」内に図書館ができても存在意義があるよう、みんなで話しあっていきたいと考えています。

いろいろな経験をおもちの皆さんのご指導ご協力をお願いします。

障害者サービス実践館の見学研修会に参加して

宇治市東宇治図書館　築紫　巧

二月十七日木曜日の午後から、枚方市立楠葉図書館を十二名の参加者と共に訪問する機会を得た。

総じて言えば、楠葉図書館は障害者サービスの量において先進図書館であるばかりでなく、サービスの質においても本格的なものであった。

以下、感じたところをまとめてみた。

①総勢九名のスタッフ全てが、おしなべて障害者サービスに携わり、それぞれの事務分掌が決まっているとのことだが、このような体制を組めることは、いろいろな点で素晴らしい。

②点字資料については、枚方・楠葉・津田の三館が担当しており、自館制作と収集を分担して行っている。

また、その収集についても、「49」は枚方、文学は楠葉、それ以外は津田というようにされておられるが、有機的で効率の良い手法だと思った。

また、選書には三人で年に数回あたっており、点字雑誌の郵送も希望者には実施しているとのことだった。

③録音資料についても、コピー購入の他、楠葉図書館で自館制作している分もあるとのことだった。

また、貸出については、元テープをマスターテープとして保存し、コピーを貸出しているとのことだが、相互貸借の数値も高く、個人貸出の他に、枚方市以外の図書への貸出など、活発に行われていることが伺い知れる。

④対面朗読の実施につて、楠葉館では、奉仕ではなく業務という位置付けから、一回二時間に対し、二千円を朗読協力者に支給しているとのこと。

無料奉仕という善意に依存する考え方の他に、財政措置を講じるという方策もあるということが、新鮮に映った。

また、各図書館に寄せられる対面朗読の要望を楠葉に集中させ、そこで一元的に把握・調整して、スケジュールや資料・謝金・利用者への連絡など、決定事項を各館に振りわけているとのことだったが、目的や性格によって、分散部門と集中部門を明確に使い分けておられる点、組織としての成熟さを感じた。

⑤在宅障害者に対する自宅配本サービスの実施や、プライベートサービスといって、歌詞カードや家電製品の取扱い説明書などを点訳・録音する制度。

点字ワープロや広範囲に書誌・所蔵検索可能なNLBシステムなど、きめ細かで心強いものばかりだが、何よりも各館の横断組織である障害者サービス委員会の存在や、全館で協力して進めていく障害者サービス基本計画の存在は、将来に向かっての可能性を確実に感じさせるものだ。

最後に、このような先進的な施策の数々とその成果が、図書館界の障害者サービスの成熟につながっていることに確信を深めたが、そのような有意義な半日を持てたことに感謝したい。

専門委員会ニュース

〔研修研究委員会〕

図書館におけるレファレンスサービス

研修会　三月二十五日開催

平成四年度の京都府全館のレファレンスは三五、三三五件。その中、69%が府立・府立総合資料館・京都市中央・京都市伏見中央の件数。

多くの図書館では、貸出の増加という状況の下、レファレンスサービスに問題はないだろうか。住民のニーズは。

図書館サービスの「質」が問われている今、原点にたちかえっての研修にとりくむ。

研修会の期日　三月二十五日午後

講師　阪田蓉子（梅花女子大助教授）

予約サービスの現状

平成四年度の府内図書館の予約は九八、四七六件、（前年の22%増）

◎予約貸出率「（予約数÷貸出冊数）×一〇〇」の高い図書館

府内最高　田辺町立北部　四%（前年二・六%）、ついで田辺町立中央　二・六%、八幡市民　二・五%、加茂町立　二・二%、「府平均　一・三%、全国　一・四%（三年度）」

◎予約件数の多い図書館

京都市中央　一一、一四七、宇治市中央　一〇、五一一、八幡市男山　九、九一一

「予約」は、図書館の選書能力、ひいては図書館をより活性化する力をもっている。

図書館の規模、利用人口などとの関わりで単純に比較できないが、「予約貸出率」などで、各図書館の活動の一端を教えられる。

児童奉仕研究グループ

児童奉仕研究グループでは、児童奉仕をめぐるさまざまな問題（貸出、選書、学校との連携）について、京都府下の地域文庫の人々と研究協議を三月二十八日午後、京都市青少年活動センターで行います。

〔相互協力委員会〕

改訂作業を進めていました「京都府公共図書館等所蔵、雑誌・新聞総合目録」の最終校正が終わり、二月末には刊行できることになりました。

図書館等所蔵分で、現在の目録より約五百タイトル増加し、また、資料館所蔵分の増加目録も追加しました。

近く配布する予定ですので、御活用ください。

府立からの協力貸出は、この一月に一〇、〇〇〇冊を超えました。

府内市町村図書館等所蔵の資料をもっと相互に活用できるよう、FAXを使っての「WANTED」について、二月四日の相互協力委員会で検討しました。

三月十日の相互協力担当者会議や理事会で検討いただき、平成六年度から実施したいと思っています。

ご協力をお願いします。

また、相互協力担当者会議では、舞鶴市立西図書館、田辺町立中央図書館からの事例報告を受けて、交流協議を行うとともに、京都市中央図書館を見学させていただきました。

〔広報委員会〕

今号のエッセイには、舞鶴市立西図書館の谷　慎一郎氏から、原稿をいただきました。

先号では、長岡京市立図書館の安岡義隆氏のお手をわずらわし、南と北の新館長さんに登場していただきました。今後益々のご健闘を期待しております。

また、今号では、

「第二回京都図書館大会」における各氏の提案を特集として、お届けいたしました。

府下一円より、ホットなニュースをご提供いただき、何とか二年間の責務を果たさせていただきました。

これも一重に皆様方の温かいご助力のおかげと、広報委員一同深く感謝申しあげるところでございます。

尚、次年度の新委員さんによってこの会報が益々充実発展していくことを祈念いたす次第でございます。